

岡山市

精神障害者を地域で支える 『包括ケアのまち岡山』実現に向けて

岡山市では、従来、精神障害者の地域生活を支えるうえでの保健・医療・福祉その他領域における課題については、それぞれの領域ごとに議論されており、「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム」として体系的・継続的な協議の場は整備されていなかった。

平成28年度以降、自立支援協議会精神保健福祉部会や既存の審議会の役割を整理し、令和3年度には、保健・医療・福祉関係者による協議の場を設置し、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を進めているところである。

今回は、岡山市における精神障害者の地域生活支援に係るこれまでの取組について振り返るとともに、今後の地域包括ケアシステムの構築に向けての課題について報告する。

1 県、指定都市、中核市、特別区の基礎情報

岡山市



《取組内容》

- ・「岡山市精神保健福祉審議会」において、地域包括ケアシステムの構築に向けた各種事業の取組状況や課題を共有。
- ・「岡山市精神障害者家族会連絡会」において、精神障害者を支援する家族の障害への理解を深め、支援する力を高める。
- ・ピアサポーターの派遣及び養成事業の実施。
- ・長期入院から地域生活へ移行した者や、地域における未治療・治療中断者に対する支援計画、方針の策定及び、継続的支援の実施。
- ・措置入院者等の退院後支援の実施及び退院後支援連絡会の実施。
- ・精神保健福祉関係者による研修会、報告会、連絡会等を通じ、情報共有や事例検討、対心力向上をはかり、精神障害者の地域移行・地域定着支援を推進。
- ・長期入院患者の実態調査及び、退院が可能な患者については、病院と協議しつつ、地域生活に移行するにあたっての準備等支援を行う。

基本情報（都道府県等情報）

障害保健福祉圏域数（R6年11月時点）	1	か所	
市町村数（R6年11月時点）	1	市町村	
人口（R6年11月時点）	712,786	人	
精神科病院の数（R6年11月時点）	8	病院	
精神科病床数（R6年3月時点）	2,625	床	
入院精神障害者数 （R5年6月時点）	合計	1,643	人
	3か月未満（％：構成割合）	541	人
		32.9	％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	308	人
		18.7	％
1年以上（％：構成割合）		794	人
		48.3	％
	うち65歳未満	312	人
	482	人	
退院率（R●年●月時点）	入院後3か月時点	-	％
	入院後6か月時点	-	％
	入院後1年時点	-	％
相談支援事業所数 （R6年12月時点）	基幹相談支援センター数	1	か所
	一般相談支援事業所数	72	か所
	特定相談支援事業所数	65	か所
保健所数（R6年12月時点）	（自立支援）協議会の開催頻度（R5年度）	1	か所
	（自立支援）協議会の開催頻度 精神領域に関する議論を行う部会の有無	6	回/年
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R6年11月時点）	都道府県	有・無	か所
	障害保健福祉圏域	有・無	か所/障害圏域数
	市町村	有・無	1 / 1
		1	か所/市町村数

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

《精神障害を持っていても、暮らしやすいまちづくり》

□障害があっても、わけ隔てのなく受け入れられるまち

全ての市民が相互に人格と個性を尊重しあいながら共生できるまちづくりにむけ、障害当事者主体の活動に対する支援。精神疾患に関する理解の普及啓発の促進と、精神障害者の地域生活安定のための環境づくり。長期入院者の退院支援に関して、病院や地域支援事業所などとの継続的かつ効果的な連携の強化。

- ⇒ 岡山市障害者等自発的活動支援事業、精神障害についての普及啓発事業（こころの早期支援事業等）
- ⇒ 岡山市差別解消支援地域協議会、日常生活自立支援事業
- ⇒ 岡山市精神保健福祉審議会、精神保健福祉連絡会
- ⇒ 自立支援協議会（地域移行支援ワーキンググループ（各地域部会内））

□適切な医療や相談が受けられるまち

身体科・精神科双方の医療機関による連携のもと、必要に応じた医療や相談が受けられる体制整備。未受診や医療中断などによる地域生活の維持及び継続が困難となっている者への支援。

- ⇒ 精神科救急情報センター、精神科病院群輪番制度、
- ⇒ 身体・精神合併症救急連携事業
- ⇒ 危機状況への介入、通報後フォロー会議、岡山市精神保健医療緊急対応連絡会

□障害を持つ方が希望を持ち、自己実現がなされるまち

障害を持つ方が生きがいを持ち、社会参加の機会が得られる環境の整備。障害者同士が交流が図れる場の提供。

障害者の生活基盤の安定のための、支援者間の情報共有と支援方針の協議。

- ⇒ 精神障害者システム整備事業（長期入院患者地域移行・地域定着支援事業、危機介入支援事業）
- ⇒ 障害福祉サービス事業
- ⇒ 岡山市精神障害者ピアサポート活動支援事業、当事者会、家族会支援
- ⇒ 障害者虐待防止に関する会議

3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

- 岡山市では、平成21年に政令指定都市となって以降、精神障害者の地域生活支援体制の拡充に向け、保健、医療、福祉などの各領域との連携を念頭に、各事業を実施してきた。精神障害を持つ方の地域生活支援に関する事業について、地域精神保健福祉連絡会において、各福祉から挙げられた課題の共有等を実施してきたが、地域包括ケアシステムの体系化に向けての協議は実施できていなかった。



- 平成27年4月に「岡山市障害者プラン」及び「第4期岡山市障害福祉計画」を策定。これを受け、保健所運営会議において、精神保健福祉領域においても地域包括ケアの体系化を念頭に、今後の精神障害者地域生活支援を検討する必要があるのではないかと意見が出たため、試行的にシステム像のイメージの検討がなされた。
- 平成28年度には、自立支援協議会精神保健福祉部会等において、当事者、保健・医療・福祉・その他地域の精神障害者の地域生活に関わる関係者との間で、地域包括ケアシステムとその内容について協議を開始した。
- 平成29年度は、精神保健福祉法改正案への対応を想定し、措置入院患者の退院後支援計画作成等をモデル的に実施した。また、市内全ての精神科病院に対して、長期入院患者の退院阻害要因等に関する実態調査を実施した。これらの取組の中で、精神障害者の地域移行において医療機関と地域の相談支援事業所等とが連携するための土台作りを行った。
- 平成30年4月に「岡山市障害者プラン」及び「第5期岡山市障害福祉計画・第1期岡山市障害児福祉計画」を策定。国の基本指針では、精神障害者地域移行・地域定着推進協議会などの保健・医療・福祉関係者による協議の場を設置することを基本としていることから、本市においても協議の場を平成30年度末までに設置することを目標に設定。
- 平成30年度は、措置入院者等の退院後支援を実施するとともに、退院後支援担当者連絡会を新設し、医療機関、地域援助事業者と具体的な運用や個別課題の共有を図った。また、昨年度に引き続いての市内全ての精神科病院に対する長期入院患者実態調査の実施に加え、精神障害者地域移行支援連絡会の開催による事例検討など、精神障害者の地域移行の促進に向けて、医療機関と地域の相談支援事業所等との連携強化を図った。
- 令和2年3月に、保健・医療・福祉関係者による協議の場を設置した。令和2年度は、各方面から地域包括ケアシステムの構築に係る現状や各種課題が抽出され、今後の方向性を示唆する会となった。引き続き協議の場を活用し、新たな施策を推進していく予定。
- 令和3年4月「岡山市障害者プラン」及び「第6期岡山市障害福祉計画・第2期岡山市障害児福祉計画」を策定。
- 令和6年4月「岡山市障害者プラン」及び「第7期岡山市障害福祉計画・第3期岡山市障害児福祉計画」を策定。

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

＜令和5年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R5年度当初)	実績値 (R5年度末)	具体的な成果・効果
① 自立支援協議会精神保健福祉部会及び地域移行支援促進ワーキングの開催回数	精神保健福祉部会 定例会議：年6回 地域移行支援ワーキング：年36回	精神保健福祉部会 定例会議：6回 関係実務者連携会議：1回 地域移行支援ワーキング：年33回	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉部会では自立支援協議会で唯一の医療機関が参加する部会として活動している。関係者実務者会議(医療と保健福祉との連携について検討する会)は昨年度に引き続き実施し、医療機関から見える地域課題の抽出を行った。抽出された課題は、自立支援協議会運営部会にて共有し、地域部会を含む各部会においても共有することになった。また、令和3年度から取り組んできた8050問題に関する関係機関のインタビューのまとめを作成した。次年度以降、関係機関に情報発信する予定。また、抽出した地域課題についての具体的な取り組みについて、検討を継続する。 地域移行支援ワーキングでは、新型コロナウイルスの影響により開催回数は目標に達しなかったが、参加者からは活発な意見が聞かれ、地域移行支援の理解が深まった。
② 岡山市精神保健福祉審議会の開催回数	年1回	1回	精神保健福祉審議会：精神保健福祉審議会を保健・医療・福祉関係者による協議の場に位置付け、各種施策を推進を検討した。
③ ピアサポーター養成者数・派遣依頼件数	養成者：10名 派遣依頼件数：116件	養成者：16名 派遣依頼件数：100件	養成研修事業については、今年度から養成研修の内容を向上させるため、専門職だけでなく、前年度以前に養成されたピアサポーターも講師となり、当事者同士で学び合える研修として実施した。派遣事業への登録者が8名と増加し、活動意欲が高い修了者が多かった。派遣事業については、派遣件数が前年度より減少した。派遣されるピアサポーターが固定化(限定)される傾向があり、その影響で派遣件数も減少したと考えられる。次年度以降は、実施に活動することができるピアサポーターを増加させるために、養成研修を2クール実施し定期的な交流会を開催する。
④ 長期入院患者に関しこころの健康センターが退院支援を行い、障害福祉サービスの計画相談支援・地域相談支援の利用に至った数。	15件	6件	新型コロナウイルス感染防止対策で減少していた対面支援が増えた。市内精神科病院への長期入院患者実態把握調査を実施し、結果を基に働きかけることで、病院や相談支援事業所の理解が少しずつ深まり、チームとして退院支援に取り組むことができた。
⑤ 岡山市退院後支援担当者連絡会	連絡会：年1回	連絡会：年1回(36名参加)	市内精神科病院の実務担当者、地域援助事業者、保健センター担当者とともに退院後支援計画を作成した事例の共有や課題の検討を行った。連携の在り方や支具体的な支援方法の共有が図ることができた。継続して実施予定。
⑥ 地域精神保健福祉連絡会の開催回数	定例会議：年8回	定例会議：8回	地域精神保健福祉連絡会では、感染対策も実施しながら開催した。幹事会はオンラインで実施したが、通信環境等により、時差があったためグループワークが困難な部分もあった。情報交換会は集合形式で行い、他福祉区の地域課題や、連絡会実施内容をグループワークにて共有することができた。会の目的を共有しながら次年度以降も開催する。

5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

【特徴(強み)】

1. 自立支援協議会や地域精神保健福祉連絡会等での活動により、各地域に存在する医療機関、障害福祉サービス事業所、相談支援機関及び行政との間で、顔が見える関係が構築されており、地域包括ケア体制について共有および検討がしやすい土壌がある。
2. ピアサポーターをはじめ、当事者とそれを支える地域活動支援センター等の積極的な活動が経年的に行われている。
3. 障害福祉サービスにおける地域移行支援事業以外に、市独自の事業としてこころの健康センターが医療機関への訪問や研修会を経年的に実施している。市内の全精神科病院において、長期入院患者の実名入りの実態調査に協力を得られるなど、医療機関側の理解が促進されつつあり、退院支援の導入にも協力的である。
4. 健康ボランティアである愛育委員や民生委員等の活動が活発で、精神障害者を支える地域づくり活動の基盤がある。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
1. 障害福祉サービス(地域移行支援)の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ○計画相談支援事業所と定期的に協議(計画ワーキング)を行い、研修会を実施し障害福祉サービスの活用や周知を図る。 ○自立支援協議会地域部会(地域移行支援ワーキング)において、地域移行支援の情報共有や事例検討等を行い理解を深める。 ○長期入院患者の退院支援を行う中で、状況に合わせて医療機関や相談支援事業所等と情報交換を行うなどして両者をつなぎ連携を促進し、地域移行支援の充実を図る。 	行政	医療機関と事業所とのマッチングや相互理解を深めるための橋渡しと地域移行支援事業推進の牽引。
		医療	地域移行推進への理解の深化、入院者及びその家族に対するサービスの紹介。
		福祉	各相談支援事業所が、少なくとも1ケースは地域移行支援に取り組む意識を持つ。
		その他関係機関・住民等	—
2. 退院支援やコーディネートにおけるピアサポーターとの協働	<ul style="list-style-type: none"> ○ピアサポーターの養成を委託している事業所や当事者グループと連携しつつ、精神科病院に入院経験のあるピアサポーターと協働して具体的な個別退院支援やコーディネートを行う。 	行政	医療機関や相談支援事業所、地域移行支援事業所等に対するピアサポートの活用促進。
		医療	ピアサポートが有効と考えられる地域移行支援対象者の把握および活用。
		福祉	計画相談支援・地域移行支援においてピアサポートが有効と考えられる対象者の把握および活用。
		その他関係機関・住民等	—
3. 新たな長期入院者を増やすことを防ぐための退院支援における一貫した体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ○岡山市退院後支援担当者連絡会において、好事例の紹介を通じ、退院後支援の枠組みの周知を行う。 ○将来的には、入院形態に関わることなく、退院支援の仕組みが定着することを目指す。 ○退院時、家族の受け入れをスムーズにするため、個別家族支援の実施や、家族会が行う家族教室等の疾病理解のための研修開催への支援を継続する。 	行政	退院後支援未実施の医療機関に対する、実際の支援を通じた退院後支援の枠組みの周知及び働きかけ。
		医療	退院後支援の積極的な活用。
		福祉	実際の支援を通じた退院後支援の枠組みの理解。
		その他関係機関・住民等	精神障害者家族会が、家族自身の体験に基づいた知識や知恵を共有し、家族同士の支え合いの場を提供。

6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための連携状況

【にも包括構築の体制】

所管部署名	所管部署における主な業務
保健管理課	実務担当部門の事務取りまとめや 厚労省との調整等

連携部署名	連携部署における主な業務
健康づくり課	ピアサポーターの派遣・養成等
こころの健康センター	精神障害者の地域定着支援等

各部門の連携状況		強み・課題等
保健		
医療		
福祉		
その他関係機関・住民等		

7 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築のための協議の場の実施状況

名称	協議の場の構成員	開催頻度	実施内容	特記事項等(課題・強み等)
岡山市精神保健 福祉審議会	弁護士、医師、精神障害者当 事者、看護師、精神障害者家 族、福祉関係者等	年1回以上		

【その他事項】 ※協議の場運営における課題や悩んでいる点、アドバイザーに相談したい事項など、自由に記載ください

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた 今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
通年	【精神障害者地域移行・地域定着支援事業】	市内精神科病院と地域の支援者を対象に実践報告会を予定。 研修会・事例検討を2回程度開催予定。
通年	【岡山市自立支援協議会】 ・全体会 ・運営会議 ・地域移行支援ワーキング	全体会(年2回)、運営会議(年6回) 協議の場としての地域移行支援ワーキング(3地域・各12回)を予定。
通年	・精神保健福祉部会	定例会議(年6回)、
通年	・計画ワーキング	計画相談支援事業所との協議(年12回)、研修会(年2回)
通年	【地域精神保健福祉連絡会】	幹事会(年2回)、地域別連絡会(6地域、各年1回)
通年	【岡山市ピアサポート活動支援事業】 ・ピアサポーター派遣事業 ・ピアサポーター養成研修事業	ピアサポーター派遣(通年・随時) ピアサポーター養成講座(年2クール)、交流会、フォロー研修(通年・随時)
11月	【退院後支援担当者連絡会】	退院後支援担当者連絡会(年1回 11月開催予定)
通年	【市長同意入院者への個別面談】	市長同意入院者への個別面談
11月	【岡山市精神科病院入院患者調査】	市内8精神科病院における1年以上長期入院患者の実態調査
1～2月	【岡山市精神保健福祉審議会】	岡山市精神保健福祉審議会